

未来をつくる教育フォーラム2020 開催報告

【事例から学ぶ】ICT・タブレット活用における 学校現場のチャレンジ



2020年11月28日（土）10：00～12：00

オンライン開催（Zoomウェビナー）
主催：株式会社日本コスモトピア

協力：うるま市教育委員会
学校法人角川ドワンゴ学園 N高等学校
株式会社roku you

後援：一般社団法人日本SEL推進協会
一般社団法人自立学習推進協会

未来をつくる教育フォーラム2020 開催報告

2017年より「2030年に豊かな社会を実現する教育」をテーマに開催してきました、「未来をつくる教育フォーラム」。今年も、11月28日（土）にオンラインにて開催いたしました。

「未来をつくる教育フォーラム2020」は、「事例から学ぶ ICT・タブレット活用における学校現場のチャレンジ」と題し、子どもたちの“主体的な学び”を引き出すためにどのような活用ができるのか、学校現場のあらゆる場面での「ICT活用の可能性」を実践校の先生方にご報告いただきました。

■ プログラム ■

◆ 教科学習でのタブレットの活用で見た子どもたちの変化と課題

講師：坂本 静泰 氏 / 奈良市立春日中学校 校長

◆ プレゼン力を高めるタブレット活用とオンライン授業の実践

講師：西本 晃 氏 / 大阪市立築港中学校 校長

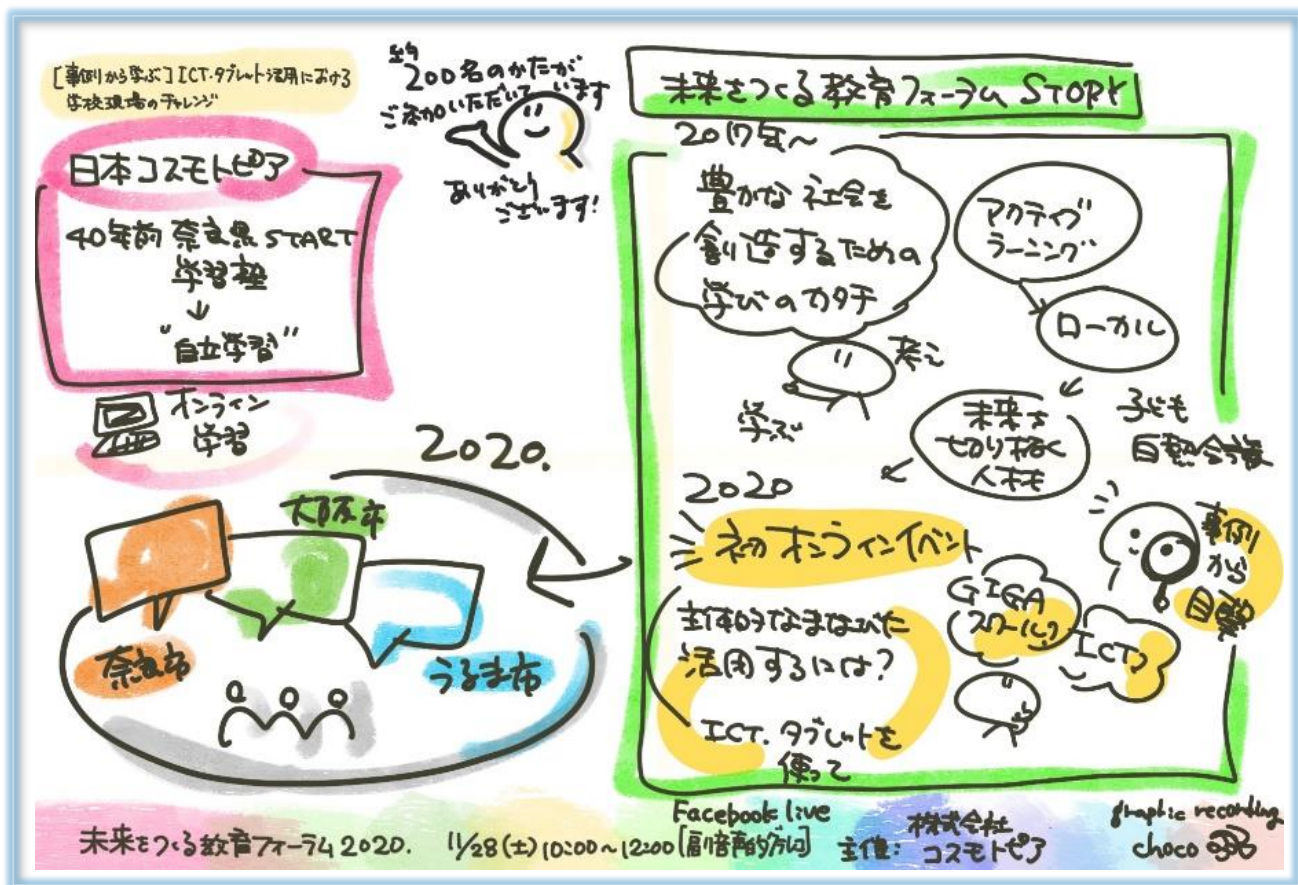
◆ へき地教育でのICT機器活用の可能性

講師：砂川 成人 氏 / うるま市教育委員会 指導課 指導主事

講師：宮城 渉 氏 / うるま市立津堅小中学校 教諭

講師：園 利一郎 氏 / 学校法人 角川ドワンゴ学園 N高等学校

モデレーター：下向依梨 氏 株式会社 roku you 代表取締役



『未来をつくる教育フォーラム2020』のアーカイブをご覧ください。
こちらのフォームよりお申込みください。

<https://forum.cosmotopia.co.jp/forum2020>



教科学習でのタブレットの活用で見た子どもたちの変化と課題

講師：坂本 静泰（さかもと しずひろ）氏

奈良市立春日中学校 校長

奈良市立春日中学校では「いちばん古い奈良の、いちばん古い中学校で、いちばん新しい教育を！」をスローガンに、タブレット活用やオンライン授業を進めてこられました。春日中学校のタブレット端末配布準備から授業での活用に至るまでの先生方の奮闘と今後の課題について発表していただきました。



◆ 臨時休校期間でのICT活用

まずは新型コロナウイルス感染症による臨時休校期間の話にさかのぼります。

奈良市、奈良県教育委員会の全児童生徒へのGsuiteのアカウント付与、家庭のインターネット環境調査に伴い、春日中学校はオンライン授業の対応を急ピッチで進められました。4月末からの「怒涛の10日間」で、家庭訪問による個別アカウント配布、ログインの確認など設備や環境を整えた後、5月14日にはオンライン授業を開始、というまさにスピード感のある対応をされました。

その過程では県や市による研修のほか、自然発生的に職員同士の研修が行われるなど、教育委員会、学校、教職員が一体となって動かれました。オンラインでの朝の会が始まると、先生・生徒双方が繋がった喜びや安心感が感じられました。



◆ GIGAスクール構想実現への先生方の奮闘

9月、奈良でタブレット端末の配布が始まります。春日中学校では、「やるからにはスタートダッシュを」の掛け声のもと、校内Wifiスポット新設と総延長なんと7000mもの校内LANケーブルの工事を約10日間で終え、9月9日にはいち早く560台の端末が学校に届きました。先生方がフィルタリング対応などの初期設定をタブレット端末1台1台に行うという大人たちの奮闘があり、無事生徒たちに端末が配布されました。

◆ 運用スタートと授業での実践

春日中学校が実際にタブレット活用を行う中で心掛けたことについてお話しいただきました。

タブレットの破損、紛失などを恐れずにどんどん使うこと、まずは使ってみて、試行錯誤の中で修正していかれたそうです。その中で、IDの管理など失敗はありましたが早期に修正することができたそうです。全生徒に導入スケジュール、使用ルール、情報モラルについてのプリントを配布することで一定のルールを決められています。実際の保健体育、国語、家庭科などタブレットを活用した授業や、英語のオンラインの様子をご紹介します。



◆ まとめ - タブレット活用で見てきたもの -

「せっかくの配布、一つ一つのことに意味を持たせることが大事。大人の奮闘を見せることにより、ここから先は生徒たちが頑張る場だということを訴えたい。これらのことは自校に対する愛着、誇りを育むことに繋がった」ということです。またタブレット使用を機会に勉強の楽しさに気付く生徒も多くみられました。春日中学校では先行事例などの情報共有ができればとお考えです。ぜひ春日中学校のHPをご覧ください。

プレゼン力を高めるタブレット活用とオンライン授業の実践

講師：西本 晃氏（にしもと あきら）氏

大阪市立築港中学校 校長

大阪市立築港中学校は、大阪港の中にあり、生徒数が90名の学校です。「わかる喜び、できる楽しさを実感できる授業をめざす」ことを目標にされています。一斉画一的な授業から、グループワークやディスカッションを取り入れた授業に改善し、生徒の学ぶ意欲やプレゼンテーション力の向上を図っておられます。



◆ タブレットを活用した、プレゼンテーション力を引き出す授業

まず授業でのICT機器やタブレットの活用についてご紹介いただきました。

音楽では書画カメラで先生の手元を撮影、指使いがよりわかりやすく生徒の習得を助けます。理科では発表ノートで資料の共有や発表をします。『まなボード』を活用し、各自課題を解いたりグループでの発表も行います。技術ではスクラッチを使いプログラミングを学びます。

タブレット端末を使いながらこのように発表やディスカッションを中心にし、生徒たちのプレゼンテーション力を引き出す授業を行っています。

またタブレットやプリンターなどの機器類を生徒たち自身で管理することも自然に行われていました。このような授業の結果、築港中学校の調査・研究などの取り組みがいろいろな方面で発表されています。昆虫食へのチャレンジ、海遊館との連携による大阪湾の干潟の調査を実施し、様々なコンテストにも応募され入賞されています。

2. プレゼンテーション力を引き出す授業（技術 プログラミング）



2. プレゼンテーション力を引き出す授業（数学）



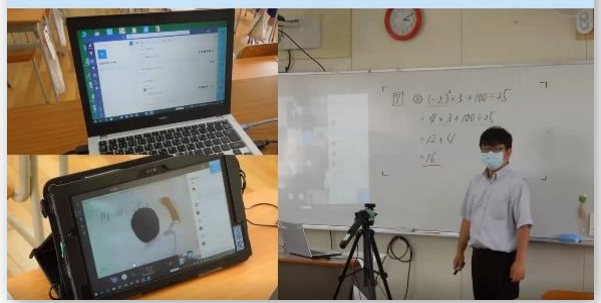
◆ オンライン授業の取り組み

オンライン授業の取り組みについてもご紹介いただきました。オンライン授業で双方向に学習するため、回数を重ねながら様々な工夫をされています。

- 『生徒の反応を見るためチャット機能をうまく使う』
- 『カメラを複数用いて場面ごとに切り替える』
- 『発言時のルールを決めておく』

入力が遅い生徒のために、簡単な発言のルールを決め数字などサインによるコミュニケーションで生徒の反応を見るようにしています。

2. オンライン授業。やってみて、わかったこと。（Windowsタブレット）



◆ まとめ - これから必要なスキルとは？ -

これからの社会では、「21世紀型スキル」であるコミュニケーション能力、批判的思考力、創造力、コラボレーション能力、ICT活用能力を伸ばすことが必要不可欠です。少人数の築港中学校だからこそこのような試みができたのではないかと考えています。

築港中学校だからできる、築港中学校でなければできない教育を目指していきたいとおっしゃっていました。



へき地教育でのICT活用の可能性

講師：砂川 成人氏 / うるま市教育委員会 指導課 指導主事

講師：宮城 渉氏 / うるま市立津堅小中学校 教諭

講師：園 利一郎氏 / 学校法人角川ドワンゴ学園 N高等学校

モデレーター：下向依梨氏 / 株式会社roku you 代表取締役

うるま市島嶼（とうしょ）地域の中学校3校とうるま市に本校をおくN高等学校が連携し、インターネットを活用した、学校間・生徒間で協同で取り組む「部活動」や総合の時間のプロジェクト学習においてICTを活用した取り組みが実践されています。

ICTを活用した”遊び”から学ぶをコンセプトに、離島にいながらにして、他地域とつながり、課題解決や価値創造に取り組める人材を育てることをビジョンに掲げられています。



◆ 島嶼地域の課題への取り組み

島嶼地域では生徒の人数が少ないため、『子どもたちの交流の機会や課外活動の機会が限定的』『将来的な学校存続危機』『多様な考えに触れにくい』など、様々な問題を抱えています。インターネットの活用でこれらの問題を解決すると共に、地域にいながら、地域の内外と連携して課題解決や価値創造に取り組める人材を育てること、そういったノウハウがグローバル教育に繋がっていきました。21世紀型スキルプログラムを基盤とした魅力的なプロジェクト学習やネット部活動の企画、実施をされました。

地域にいながら、地域の内外と連携して課題解決や価値創造に取り組める人材を育てる



人も資源も少ない地域だからこそ、発生、成立し得るプロジェクト学習 遠隔地の様々な人材と連携する人材を育てるノウハウが、グローバル教育につながる

◆ ネット部活・プロジェクト学習実施の中での子どもたちの変化

ネット部活の中で、子どもたちが島の良さについて語り合い、より自分の育った環境を認識し、また発信する力をつけていく様子が見られました。これらはテレビでも放送され、子どもたちからはこのような意見が出ています。

「いろいろな意見があって自分の勉強になった。相手の表情が伝わってきて楽しかった」

「最初は違和感があったがだんだん慣れてきて、普通の日課になってきている」

実は子どもたちは最初から歓迎していたわけではなかったそうです。次第に子どもたちが楽しく没頭するようになった経緯についてもお話いただきました。

うるま市ではMacbook Airを配布し使用しています。ここでも学校から配られた機器を「学校のもの」から「自分のもの」にする工夫がありました。「開封の儀」を行い、指紋認証を設定する。そういった一つ一つの仕掛けが子どもたちの気持ちを変えていきました。また、小学校の修学旅行での事前学習、マイクラフトでの創作活動、他校との交流学习など、使う場面をどんどん増やしていきました。

学習目標 ①記憶する ②理解する ③応用する ④分析する ⑤評価する ⑥創造する



取組

修学旅行の事前学習
(総合学習・小学部)

学習形態 個別・教科学習 個別・探究学習 協同・教科学習 協同・探究学習 一斉・教科学習 一斉・探究学習

学習目標 ①記憶する ②理解する ③応用する ④分析する ⑤評価する ⑥創造する



取組

マイクラフトで
創作活動

学習形態 個別・教科学習 個別・探究学習 協同・教科学習 協同・探究学習 一斉・教科学習 一斉・探究学習

まとめ - 講師の方からのメッセージ -

うるま市教育委員会 砂川氏

「失敗してもいいからやってみよう。子どもが先生になることもある。教育に対する思考の転換も必要。」



N高等学校 園氏

「スキルを学ぶことは大切、でもそれだけでは面白くないので楽しいことを」



津堅小中学校 宮城氏

「最初から教科学習を目的にするのではなく、『とりあえずやってみて』、その後教科学習に繋げていった。大人がわくわくできることをやればいい」



株式会社roku you 下向氏

「地域にいながら世界中と仕事をする人材を育てていきたい。今日を始まりとしてこれからも続けていきましょう」



当日のチャットより

アカウントまみれは大人もそうですね。
保護者との関係性も素晴らしいな、と思います。

まずはやってみる！いいですね。
こどもが先生。柔軟ですね。

とりあえずやる！チャレンジ精神大事ですよ！

やはり、新しい事をスタートするには
上の速い決断と柔軟性

少人数だからこそその強みを打ち出せているのが良いですね！

過剰なセキュリティ、フィルタリング、
制限は、結果的にICTを面白くないものにしてしまって、
生徒も活用に後ろ向きになってしまいますね

主催者 閉会の挨拶

下向 峰子（しもむかい みねこ）

株式会社 日本コスモトピア 代表取締役

本日のフォーラムでは、各校現場の生の声を聞かせて
いただき、皆さん非常に刺激になったと思います。

ご発表の中で共通していたことは、わくわくするこ
とを恐れずとにかくやってみる。行動を起こしてから

修正していくことが大事だということです。先生がわくわくしていると生徒との垣根が
いい意味でなくなっていくことが素晴らしいと感じました。

私どもが主催している未来をつくる教育フォーラム4回目の開催にあたり、身近な存在である
学校現場のことを取材いたしました。様々な立場のステークホルダーが現場を知って、アイデ
アを出していくということを今後も続けていきたいと考えています。

新しい時代の教育を目撃するだけでなくそれぞれが実践者となっていきましょう。



司会 / グラフィックレコーダー



司会 石原侑美（いしはらゆみ）氏

北欧式ブランド作りコンサルタント、フィンランド生涯教育研究家。
フィンランドを中心に、北欧の文化・習慣・生活を研究し、その下支
えとなる生涯教育とブランディングについて日本で発信。

Elämäプロジェクト代表、株式会社Live Innovation代表取締役。

コトバグラフィッカー 室伏長子（むろふしながこ）氏

「あらゆるすべてのチカラを最大限に発揮できるように」

「ひとりひとり、ひとつひとつをていねいに、大切に」を胸に『コト
バグラフィッカーちょこ』として活動中。『みえる化』をさまざまな
現場で行っている。



未来をつくる教育フォーラム2020

*開催後のアンケートにて、たくさんのご意見をいただきました。ありがとうございました。

現場としては、具体的な取組を知りたいので、今回のようなお話や実際の授業のより具体的な取組について知れるとよい。

教育の世界に一般企業が入ることにより閉鎖的で開発途上の教育世界に希望が見えるセミナーであると感じた。今後も教育×一般企業を行なってもらいたい。

非常にしっかりと現在の教育現場の実情がまとめられており理解しやすかった。

まずは、やってみる、ということが大切だということがわかった。

できないことを列挙するよりも、できることを一つずつ実行していくことが、子どものためであり教職員のためであるということを改めて感じる時間となりました。コロナで閉塞的な世の中ですが、希望は教育にこそあるのだと前向きな気持ちになれました。

「不安がっているのは教員。始めてみたらなんとかなる。課題はあるけど、効果はそれ以上にある。」という思いが共通していると思いました。このことを全国の教育関係者にもっと知らせたいと切実に思います。

成功事例の出来上がった発表ではなく生の声を聴けたことが一番の収穫です。

グラフィックレコーダーがとてもうまくまとめられていた。

自分の学校にはない発想だったことや、前向きに取組まれていることが、参考になりました。資料として学校で教員の方たちに提案したいと思っています。





〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-9-28
TEL : 06-6390-2100
<https://www.cosmotopia.co.jp/>